

# あまふりじんじゃ 天降神社

古賀市薦野 1863 番地の 1

## 祭神

すさのおのみこと すくなひこなのみこと おおなむちのみこと  
素盞鳴尊・少彦名命・大己貴命

## 縁起

以前は天降天神と称し、少彦名命が主祭神でした。嘉元3年(1305)に火難にあい、古野(現在の小野公園付近)から今の社地に遷うつされたと伝えられています。

## 氏子

こものねたび。昔は舍利蔵(福津市)も氏子でした。

## 本地仏

本地仏とは、日本の神の本体は仏(如来や菩薩)ですが、衆生を救うための手段として、仮に神の姿をとって現れるという、「本地垂跡ほんじすいじやく」の思想による仏をいいます。天降神社の本地仏は十一面観音菩薩でしたが、明治維新の神仏分離の際、以前から社地にいられた地藏菩薩と共に下観音堂に遷されました。



▲十一面観音菩薩



◀本殿



▲拝殿

本殿の木造彫刻 平成3年(1991)3月19日市指定文化財

手挟み(2基4面)の飛天像・妻飾りの竜その他どれも見事な彫刻です。飛天像彫刻の手挟みは、明治維新の廃仏毀釈の際、民家の土蔵に遷して難を免れたものです。

梵鐘(戦後所在不明)

有名な芦屋の金工大江宣秀が天文6年(1537)に鑄造し、鞍手郡新北郷の丹比氏女(薦野、米多比両家の一族)が寄進したものでした。

立花増厚寄進の石灯籠

宝暦7年(1752)の寄進。増厚は明和4年(1767)に清瀧寺の本堂も寄進しています。

一の鳥居

「天降宮」の額の文字は“天”の異体字。寛延3年(1750)寄進。



▲享保5年(1720)の棟札



▲棟札に書かれていた梵字



▲本殿の木造彫刻



▲手挟みの飛天像



▲妻飾りの竜



▲立花増厚寄進の石灯籠



▲天降宮一の鳥居



▲梵鐘(金工大江宣秀)